

巻 頭 言

高知女子大学看護学会長

野 嶋 佐由美

健康寿命が世界一の日本は、2007年に生まれた子どもの50%が107歳まで生きると予想されている。このような人生100年時代においては、「教育・仕事・老後」という3ステージの人生ではなく、多様な「人生の再設計」を行いながらマルチステージの人生を生きていくことが求められる。市民や高校生を対象とする「人生100年時代に備えて」等をテーマとする講演会やセミナーも実施されている。人生100年時代は、人々の暮らしや健康に直結する衝撃をもたらし、看護界に、看護専門職に、パラダイムシフトが要請されているといっても過言ではない。

また、科学技術の急激な進歩、AI、IoT、ビックデータ、ロボテックス等の高度化した最先端技術は、あらゆる産業、社会生活に取り入れられ、Society 5.0（超スマート社会）が実現すると予告されている。保健医療にも革新的なテクノロジーの進展がもたらされることとなる。データヘルス、データサイエンスやエビデンスの思想が広く普及している今日、専門職者はこれらを基礎的素養として修得していることが求められている。看護学がSociety 5.0社会のなかでどのように貢献できるか、看護専門職者としてあり方が問われている。

人生100年時代、そしてSociety 5.0社会の到来において、社会の基盤となっている重要な構成要素の複数相互に循環的に関連しながら変化をもたらす、社会が急激に変動している。そして、これらの社会の急激な変動に対応し、新たな変化を創造していくためには、教育の在り方や人材育成の方法を変えることが必要であると警告されている。例えば、「Society 5.0に向けた人材育成～社会が変わる、学びが変わる～」(Society 5.0に向けた人材育成に係る大臣懇談会 平成30年6月)、「人づくり革命 基本構想」(人生100年時代構想会議 平成30年6月)、さらに「2040年に向けた高等教育グランドデザイン」(中高教育審議会 平成30年11月)と、次々と提言されている。「2040年に向けた高等教育グランドデザイン」では、①学修の成果を学修者が実感できる教育・学びの質保証の再構築、②あらゆる世代が学ぶ「知の基盤」、③多様な機関による多様な教育の提供などの、地域社会のニーズに対応し、社会が求める人を養成する大学教育となるよう、パラダイムシフトを求めている。

今、変化を巻き起こしている先駆者は、過去5年、10年かけて地道に研究を蓄積してきた成果を開花させている。知識・科学技術が変化しているなかで、専門職として自己の知識は時代遅れになっていないか、驕りはないか、新しい知識や考え方を吸収できているかと、吟味し自省することが重要であると痛感し、また、教育者として、現在の様相、有り様を自問するところである。

高知女子大学看護学会編集委員会の努力によって、第44巻は総説1論文、原著論文9論文、研究報告6論文を掲載することができました。学会員の皆様の研究活動の成果のみならず、博士論文、修士論文、卒業論文などの成果など多岐にわたって、興味深い論文が掲載されています。本学会誌の特徴の1つは、査読者からの、投稿者の意向を汲み取り尊重した教育的な指摘がなされていることです。この場を借りて、本学会誌に育ててくださっている方々に感謝いたします。今後も、多くの卒業生や修了生が投稿しやすい学会誌となるように、努力を重ねて参りたいと思っています。